



## 大阪部会(第 65 回)

日 時: 2019 年 9 月 28 日(土) 18:00~20:05

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 65 回の出席者は 16 名。

(1)まず、岡部ちはる氏(東京証券取引所)から、8月に開催された「先生のための夏休み経済教室」の参加状況や、アンケート結果などが報告された。経済教室の内容に関しては、授業実践も講演も教材紹介も、全体として評価が高い。ただ、申込者、参加者とも減少しており、特に大阪の広報が遅れたのが理由のひとつとしてあげられた。その他、次年度に向けての課題などについて意見交換が行われた。

(2)篠原総一代表(同志社大学名誉教授)から、最近および今後の経済教育ネットワークの活動が報告された。12月末に東京、1月はじめに沖縄、時期は未定ながら札幌でも、経済教室かシンポジウムの開催が予定されている。また、経済教育ネットワークのホームページを大幅に更新する予定であることと、実践教材のページを充実させる方針であることが述べられ、先生方への協力が要請された。加えて、数年前から東京で開かれている勉強会を、大阪でも、部会とは別に少人数で開くことが提案された。

(3)奥田修一郎氏(大阪教育大学等)から、「労働問題に着目した中学校公民的分野の授業開発—新しい働き方を実現するための手がかりに—」と題する授業案が報告された。奥田氏は、中学校公民分野で労働の扱いが不足しており、生活の基盤である労働について、授業でもあまり取り上げられていないとの問題意識をもっている。それを改善したいと、大阪部会において奥田氏は、男女賃金格差の問題、外国人労働者の受け入れ問題と、連続的に授業案を発表してきた。今回はその続きと位置づけられるもので、日本の長時間労働についての授業案である。まず長時間労働の原因としては、労働者自身の問題、同僚や上司、会社組織、法律上の問題など、様々なものが考えられる。奥田氏は、それらを理解するための豊富な資料を用意し、長時間労働について多角的多面的に学んだ上で、あらためて原因と改善策を考えさせる授業案を作成している。出席者からは、やや難しすぎる内容をどう中学生に理解させるかという点、職業・仕事内容によっても事情は様々に異なるし、しかも、どの仕事についても中学生は具体的イメージがもてない状態から、どう授業に向かわせるかという点、などが指摘された。中学校の先生の長時間労働を題材にしたらどうか、という意見もあった。

(4)李洪俊氏(大阪市立大和川中学校)から、「全国公立高校入試問題(2019年の実施)について」として、入試問題の分析が報告された。ただし、今回の入試問題分析は「学習指導要領が目指している学習内容と授業改革がどのように入試問題で問われているにかという視点で」行われたものである。そのため、入試問題を、①主体的な学びが必要になる出題か、②思考力・判断力・表現力を要する問題か、③社会的な見方・考え方を働かせれば解ける問題か、④学びに向かう力や人間性の涵養に役立つ問題か、⑤他の分野で学んだことを活かして汎用力を要する問題か、という指導要領のポイントに沿



って評価することも行った。今回の分析の結果、ますます資料を読み取らせる問題が増えていること、読ませる文章量が多くなっていること、公民だけでなく地理や歴史にもまたがった問題が増えていることなどが指摘された。

(5)丹松美代志氏（大阪学びの会代表など）から、御著書『教えるから学ぶへ ～協同的学びとの出会い～』（晃洋書房）の紹介がされ、「深い学びにつながる探求型学習とは」と題するシンポジウム（12月15日大阪大学中之島センター）の案内が配布された。また、飯島知明氏（島本町立第一中学校）から「解説合戦&討論」の活動実績をまとめた資料が配付された。

（文責 野間敏克）

次回開催予定：2019年11月30日（土）、時間は18:00～20:00、場所は未定。